

第1章 調査の概要

1. 調査目的

吹田市民の市政やまちづくりに関する意見や要望等を把握し、今後の施策や事業を検討するとともに、市政運営の基礎資料とする。

2. 調査項目

- ①回答者の属性について
- ②回答者の居住地について
- ③余暇活動などについて
- ④市政情報やインターネットを活用した情報提供について
- ⑤医療について
- ⑥障がい者の人権について
- ⑦吹田市のさまざまな取組や市政運営について
- ⑧まちづくりへの意見

3. 調査対象

- ①調査地域 吹田市全域
- ②母集団 平成26年(2014年)7月1日現在、18歳以上85歳未満の吹田市在住者
- ③標本数 2,000名
- ④抽出方法 層化系統無作為抽出法

4. 調査期間

平成26年7月25日(金)～8月22日(金)

5. 調査方法

郵送調査法(お礼兼督促1回、無記名方式)

6. 調査委託機関

株式会社 地域未来研究所

7. 回収結果

今回調査の有効回答数は1,193件で、有効回収率は60.1%となった。

表 1.7.1 回収結果

	件数	比率	備考
A 調査票発送数	2,000	—	
B 調査不能（補充）	11	0.6%	※調査不能(補充)率=B/A×100
【尋ね当たらず等】	11	—	予備標本より充当
C 調査不能（非補充）	16	0.8%	※調査不能(非補充)率=C/A×100
【長期不在・転出】	0	—	
【拒否:理由不明】	13	—	
【拒否:病気・高齢等】	3	—	
D 調査票到達数(調査対象者数)	1,984	99.2%	D=A-C
E 有効回収票	1,193	60.1%	※回収率=E/D×100
F 未回収数	791	39.9%	F=D-E

8. 信頼区間

本調査では、標本調査（無作為抽出）であることから、標本誤差が生じることがある。調査結果の誤差は、次式で統計学的に得られる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N=289,669
 《母集団=吹田市の18~85歳人口》
 n=1,193 《有効回答者数》
 P=回答の比率 (%)

今回調査の標本誤差は、以下のとおりである。

表 1.8.1 今回調査の標本誤差

回答の比率	90%	80%	70%	60%	50%
	10%	20%	30%	40%	
誤差	±1.70	±2.27	±2.60	±2.77	±2.83

（この表の計算式の信頼度は95%である）

※表 1.8.1 の見方：ある設問で、全体の回答が『80%』であった場合、80%を中心に±2.27、つまり、真の値は『77.73%~82.27%』の間にあると推定してよいが、その推定が正しい確率は95%である。

9. 報告書の見方

- 比率は全て、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（副問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。
- 2つの選択肢を集約した場合（「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合計した『満足』など）は、該当選択肢の回答数の合計から割合を算出しているため、グラフに示した選択肢ごとに算出した割合の合計と一致しない場合がある。
- 図表中の「N」は集計対象者数を示し、各選択肢の回答比率は「N」を集計母数として算出した。
- 図表中の次の表示は、複数回答設問を示す。
 - ・MA%（Multiple Answer）：選択肢の中からあてはまるものを全て選択する設問
 - ・3LA%（3 Limited Answer）：選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する設問
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- 問14（地域の環境についての満足度・重要度）、問46（市政の満足度・重要度）などの評価項目では、評価を要約的に示すため、回答数に得点を与え、平均評価点を算出（※算出方法についてはそれぞれのページに示す）している。

第2章 回答者の基本属性

1. 居住地域、性別、年齢

(1) 居住地域 (問1)

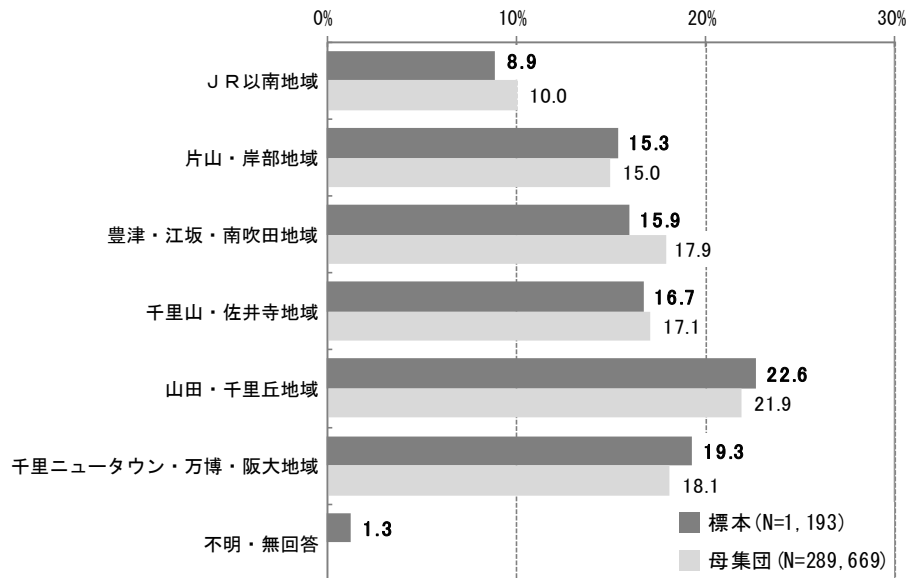


図 2.1.1 居住地域

- 回答者の居住地域 (図2.1.1) は、「山田・千里丘地域」が最も多く22.6%、次いで、「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が19.3%、「千里山・佐井寺地域」が16.7%となっている。
- 母集団と比較しても、両者の間に大きな差はみられない。

(2) 性別 (問3)

表 2.1.1 居住地域別 性別

		母集団			標本			
		(人口)	女性	男性	N	女性	男性	無不回答・
全体		289,669	51.9	48.1	1,193	55.2	44.3	0.5
居住地域別	JR以南	29,087	51.8	48.2	106	48.1	51.9	0.0
	片山・岸部	43,342	51.3	48.7	183	54.1	45.4	0.5
	豊津・江坂・南吹田	51,874	49.7	50.3	190	50.0	50.0	0.0
	千里山・佐井寺	49,501	52.1	47.9	199	59.3	40.2	0.5
	山田・千里丘	63,438	52.1	47.9	270	60.4	39.6	0.0
	千里NT・万博・阪大	52,427	54.5	45.5	230	55.7	44.3	0.0
	不明・無回答	-	-	-	15	33.3	40.0	26.7

- 回答者の性別 (表2.1.1) は、「女性」が55.2%、「男性」が44.3%となっている。
- 居住地域別にみると、JR以南地域は「女性」(48.1%)より「男性」(51.9%)の方が多く、豊津・江坂・南吹田地域は「女性」と「男性」が同数となっている。それ以外の地域では「女性」の方が多くなっている。
- 母集団と比較すると、千里山・佐井寺地域と山田・千里丘地域では標本の方が「女性」の割合が高く、母集団との差が大きくなっている。

(3) 年齢 (問2)

表 2.1.2 性別・居住地域別 年齢

			(%)						
		N	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無不明回答・
標本		1,193	10.1	14.9	18.9	14.5	20.8	19.8	0.9
母集団		289,669	15.6	17.5	20.7	14.1	15.8	16.2	-
性別	女性	659	9.6	15.9	19.9	13.2	20.6	20.5	0.3
	男性	528	11.0	13.6	18.0	16.3	21.0	19.1	0.9
	不明・無回答	6	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7
居住地域別	JR以南	106	6.6	16.0	12.3	12.3	24.5	28.3	0.0
	片山・岸部	183	9.3	16.4	16.9	19.1	22.4	15.8	0.0
	豊津・江坂・南吹田	190	14.7	17.4	19.5	9.5	18.9	18.4	1.6
	千里山・佐井寺	199	10.6	13.1	22.6	15.6	19.1	18.6	0.5
	山田・千里丘	270	8.5	16.3	19.3	17.4	21.9	16.3	0.4
	千里NT・万博・阪大	230	10.9	10.9	20.4	11.3	20.0	25.7	0.9
	不明・無回答	15	0.0	20.0	6.7	20.0	13.3	13.3	26.7

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の年代 (表2.1.2) は、「60歳代」が最も多く20.8%、次いで、「70歳以上」が19.8%、「40歳代」が18.9%となっている。
- 性別にみると、女性・男性ともに「60歳代」が最も多く、次いで、「70歳以上」となっている。
- 居住地域別にみると、JR以南地域と千里ニュータウン・万博・阪大地域では「70歳以上」が、片山・岸部地域と山田・千里丘地域では「60歳代」が、豊津・江坂・南吹田地域と千里山・佐井寺地域では「40歳代」が最も多くなっている。
- 母集団と比較すると、「40歳代」までは標本の割合の方が低いが、「50歳代」以上では標本の方が高くなっている。

2. 職業、主な通勤・通学地

(1) 主な職業 (問4)

表 2.2.1 性別・年齢別・居住地域別 主な職業

		N	* 常時雇用者	* 臨時雇用者	派遣社員	内職	自営業者主、自由業者	家族従業者	重役、経営者、役員	学生	専業主婦・主夫	無職*	無回答・不明
全体		1,193	29.3	17.8	1.2	0.3	6.3	0.3	2.7	3.4	19.3	18.9	0.8
性別	女性	659	16.8	24.4	1.1	0.3	3.5	0.5	1.1	3.2	34.1	14.7	0.3
	男性	528	44.9	9.7	1.3	0.2	9.8	0.0	4.7	3.8	0.8	24.2	0.6
	不明・無回答	6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7
年齢別	30歳未満	121	38.8	19.0	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	33.9	3.3	3.3	0.0
	30歳代	178	54.5	16.9	1.1	0.0	3.9	0.0	1.1	0.0	18.5	3.9	0.0
	40歳代	226	43.8	26.1	2.7	0.4	4.0	0.0	2.2	0.0	14.2	6.6	0.0
	50歳代	173	41.0	26.0	1.2	1.2	6.4	0.6	5.2	0.0	12.1	5.8	0.6
	60歳代	248	12.5	17.7	0.8	0.0	12.5	0.8	3.2	0.0	26.2	25.4	0.8
	70歳以上	236	0.4	4.7	0.4	0.0	6.4	0.0	3.0	0.0	30.9	53.4	0.8
	不明・無回答	11	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	36.4
居住地域別	JR以南	106	25.5	17.9	1.9	0.0	8.5	0.9	1.9	0.0	17.9	24.5	0.9
	片山・岸部	183	29.0	18.6	1.6	0.5	4.4	0.5	2.7	2.7	19.1	20.8	0.0
	豊津・江坂・南吹田	190	34.2	17.4	1.1	0.0	8.9	0.0	1.6	3.2	18.9	14.7	0.0
	千里山・佐井寺	199	27.1	16.1	0.5	1.0	7.5	0.0	5.0	4.5	19.1	18.6	0.5
	山田・千里丘	270	31.9	20.7	1.1	0.0	5.6	0.0	1.1	4.1	20.4	14.8	0.4
	千里NT・万博・阪大	230	26.1	16.1	1.3	0.0	4.3	0.4	3.9	4.3	19.6	23.0	0.9
	不明・無回答	15	26.7	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3	20.0	26.7

* 調査票では、それぞれ以下のとおりである。

「常時雇用者」：常時雇用されている一般従業者

「臨時雇用者」：臨時雇用、パート、アルバイト、契約社員

「無職」：無職(学生、専業主婦・主夫を除く)

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の主な職業(表2.2.1)は、「常時雇用者」が最も多く29.3%、次いで、「専業主婦・主夫」が19.3%、「無職」が18.9%となっている。
- 性別にみると、女性は「専業主婦・主夫」(34.1%)が最も多く、次いで、「臨時雇用者」(24.4%)となっている。一方、男性は「常時雇用者」(44.9%)が最も多く、次いで、「無職」(24.2%)となっている。
- 年齢別にみると、50歳代までは「常時雇用者」が最も多く3~5割台を占めている。一方、60歳代では「専業主婦・主夫」(26.2%)が、70歳以上では「無職」(53.4%)が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、全地域で「常時雇用者」が最も多くなっている。

(2) 主な通勤・通学地 (問5)

表 2.2.2 性別・年齢別・居住地域別 主な通勤・通学先

(%)

		N	吹田市	大阪市	豊中市	茨木市	摂津市	箕面市	高槻市	池田市	大阪府内 その他の	兵庫県	京都府	その他	通勤・通学先 はない	不明・無回答
全体		1,193	24.1	19.9	2.9	1.9	1.2	1.0	0.7	0.4	3.9	2.8	1.3	1.8	37.1	1.0
性別	女性	659	24.6	13.5	2.7	1.7	0.8	1.1	0.6	0.3	1.8	2.3	0.8	1.2	48.1	0.6
	男性	528	23.7	28.2	3.2	2.3	1.5	0.9	0.8	0.6	6.4	3.4	2.1	2.5	23.7	0.8
	不明・無回答	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	66.7
年齢別	30歳未満	121	28.9	26.4	5.8	3.3	1.7	0.0	0.8	0.8	5.8	8.3	5.8	5.0	6.6	0.8
	30歳代	178	19.7	32.6	4.5	6.2	1.1	0.6	0.6	0.0	3.9	5.1	2.2	0.6	22.5	0.6
	40歳代	226	32.7	28.8	3.1	1.3	0.9	1.8	0.9	0.4	4.9	1.8	0.4	2.2	20.4	0.4
	50歳代	173	31.8	22.5	4.0	2.3	1.2	2.3	1.2	0.6	6.4	3.5	1.2	4.0	17.9	1.2
	60歳代	248	23.4	13.7	2.4	0.4	1.2	1.2	0.8	0.8	3.6	0.8	0.8	0.8	49.6	0.4
	70歳以上	236	12.3	3.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	81.8	0.8
	不明・無回答	11	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	36.4
居住地域別	JR以南	106	24.5	18.9	0.9	0.9	1.9	0.0	0.9	0.0	2.8	2.8	1.9	0.0	42.5	1.9
	片山・岸部	183	28.4	16.9	1.1	1.6	3.3	0.0	0.5	0.5	2.2	2.7	1.6	2.2	38.8	0.0
	豊津・江坂・南吹田	190	27.9	24.7	3.7	0.5	0.5	0.5	0.0	0.5	4.2	1.6	2.1	0.0	33.2	0.5
	千里山・佐井寺	199	24.6	19.6	2.5	1.0	0.0	1.0	0.5	0.0	4.5	3.5	0.5	3.5	37.7	1.0
	山田・千里丘	270	24.1	17.8	3.0	4.8	0.7	2.2	1.1	0.7	4.1	3.7	1.5	2.2	33.7	0.4
	千里NT・万博・阪大	230	16.5	22.2	5.2	1.3	1.3	1.3	0.9	0.4	4.3	2.2	0.9	1.7	40.9	0.9
	不明・無回答	15	26.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	26.7	26.7

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の主な通勤・通学地 (表2.2.2) は、「通勤・通学先はない」が最も多く37.1%、次いで、「吹田市」が24.1%、「大阪市」が19.9%となっている。
- 性別にみると、女性は「通勤・通学先はない」(48.1%)が最も多く、次いで、「吹田市」(24.6%)となっている。一方、男性は「大阪市」(28.2%)が最も多く、次いで、「吹田市」(23.7%)と「通勤・通学先はない」(23.7%)が同割合で続いている。
- 年齢別にみると、30歳未満・40歳代・50歳代では「吹田市」、30歳代では「大阪市」、60歳代以上では「通勤・通学先はない」が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、全地域で「通勤・通学先はない」が最も多く、次いで、千里ニュータウン・万博・阪大地域では「大阪市」、それ以外の地域では「吹田市」となっている。

3. 世帯人員（問6）

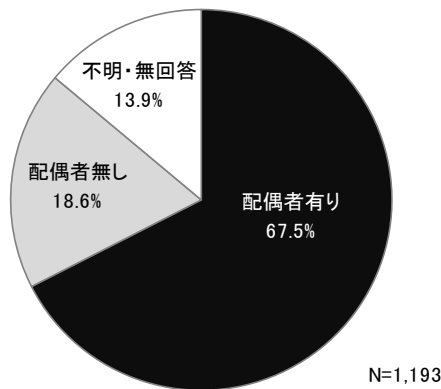


図 2.3.1 配偶者の有無

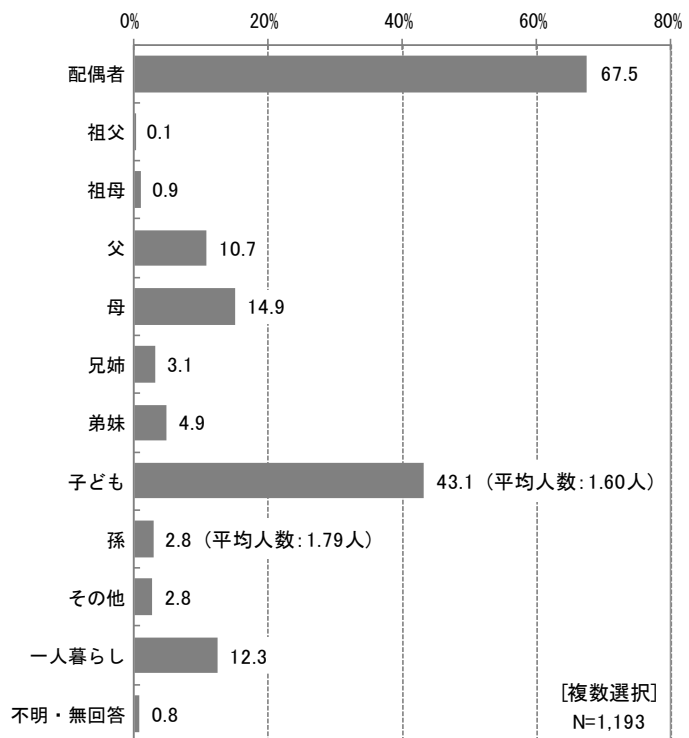


図 2.3.2 同居家族の続柄別の有無

- 回答者の配偶者の有無（図2.3.1）は、「配偶者有り」が67.5%、「配偶者無し」が18.6%となっている。
- 回答者の同居家族の続柄別の有無（図2.3.2）は、「配偶者」が最も多く67.5%、次いで、「子ども」が43.1%となっている。また、「子ども」の平均人数は1.60人、「孫」の平均人数は1.79人となっている。

表 2.3.1 居住地域別 同居家族の世帯人員

		世帯人員 (%)											
		N	一人暮らし	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	無不明回答
全体		1,193	12.3	33.4	24.5	20.5	6.2	1.6	0.5	0.1	0.1	0.1	0.8
居住地域別	JR以南	106	19.8	36.8	20.8	14.2	5.7	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9	0.9
	片山・岸部	183	16.4	26.2	28.4	18.6	6.6	2.7	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	豊津・江坂・南吹田	190	17.4	32.1	26.3	15.8	5.3	1.6	0.5	0.0	0.0	0.0	1.1
	千里山・佐井寺	199	7.5	32.7	26.1	26.1	4.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	山田・千里丘	270	7.0	33.0	24.4	26.3	6.7	0.7	0.0	0.4	0.4	0.0	1.1
	千里NT・万博・阪大	230	12.2	39.1	20.9	17.8	8.3	0.9	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4
	不明・無回答	15	6.7	40.0	13.3	6.7	0.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	13.3

※網掛け■は最も多いもの

- 回答者の世帯人員（問6の回答をもとに算定）（表2.3.1）は、「2人」が最も多く33.4%、次いで、「3人」が24.5%、「4人」が20.5%となっている。
- 居住地域別にみると、片山・岸部地域では「3人」、他の地域では「2人」が最も多くなっている。

4. 家族構成（問7）

（1）全体

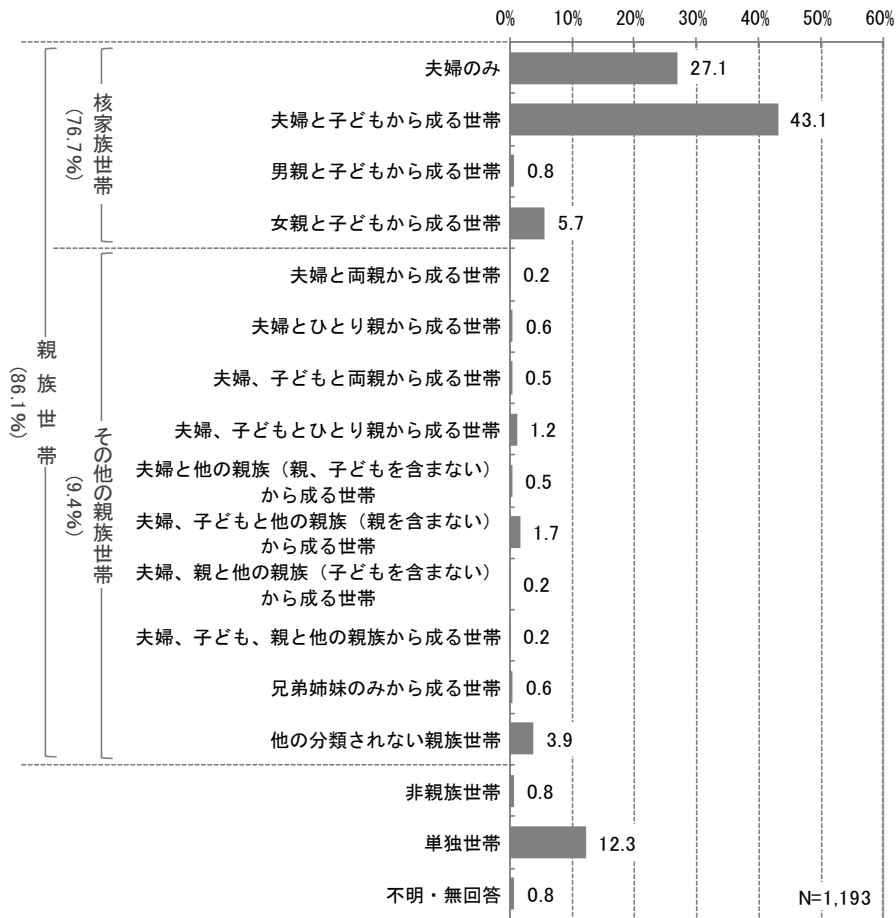


図 2.4.1 家族構成

表 2.4.1 居住地域別 家族構成

居住地域別	N	家族構成 (%)																
		夫婦のみ	夫婦と子どもから成る世帯	男親と子どもから成る世帯	女親と子どもから成る世帯	夫婦と両親から成る世帯	夫婦とひとり親から成る世帯	夫婦、子どもと両親から成る世帯	夫婦、子どもとひとり親から成る世帯	夫婦と他の親族（親、子どもを含まない）から成る世帯	夫婦、子どもと他の親族（親を含まない）から成る世帯	夫婦、親と他の親族（子どもを含まない）から成る世帯	夫婦、子ども、親と他の親族から成る世帯	兄弟姉妹のみから成る世帯	他の分類されない親族世帯	非親族世帯	単独世帯	不明・無回答
全体	1,193	27.1	43.1	0.8	5.7	0.2	0.6	0.5	1.2	0.5	1.7	0.2	0.2	0.6	3.9	0.8	12.3	0.8
JR以南	106	30.2	31.1	0.9	6.6	0.0	0.9	0.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	0.9	19.8	0.9
片山・岸部	183	20.2	47.0	0.5	5.5	0.0	0.5	0.0	0.5	0.5	2.7	0.0	0.0	0.5	4.4	1.1	16.4	0.0
豊津・江坂・南吹田	190	25.3	38.9	1.1	4.2	0.0	0.0	0.5	1.1	0.5	2.1	0.0	0.0	0.0	5.8	2.1	17.4	1.1
千里山・佐井寺	199	29.1	48.2	0.0	4.5	0.5	2.0	0.0	0.5	1.0	1.0	0.0	0.5	2.0	2.5	0.0	7.5	0.5
山田・千里丘	270	24.8	49.3	1.9	5.9	0.0	0.4	0.7	1.5	0.4	0.7	0.4	0.0	0.4	4.8	0.7	7.0	1.1
千里NT・万博・阪大	230	33.0	38.7	0.4	7.4	0.4	0.0	0.0	1.7	0.4	2.6	0.4	0.4	0.4	1.3	0.0	12.2	0.4
不明・無回答	15	33.3	20.0	0.0	6.7	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0

※網掛け■は最も多いもの

○回答者の家族構成（図2.4.1）は、「夫婦と子どもから成る世帯」が最も多く43.1%、次いで、「夫婦のみ世帯」が27.1%で、核家族世帯が全体の76.7%を占めている。

○居住地域別（表2.4.1）にみても、全地域で「夫婦と子どもから成る世帯」が最も多くなっている。

(2) 15歳未満・65歳以上の親族がいる世帯

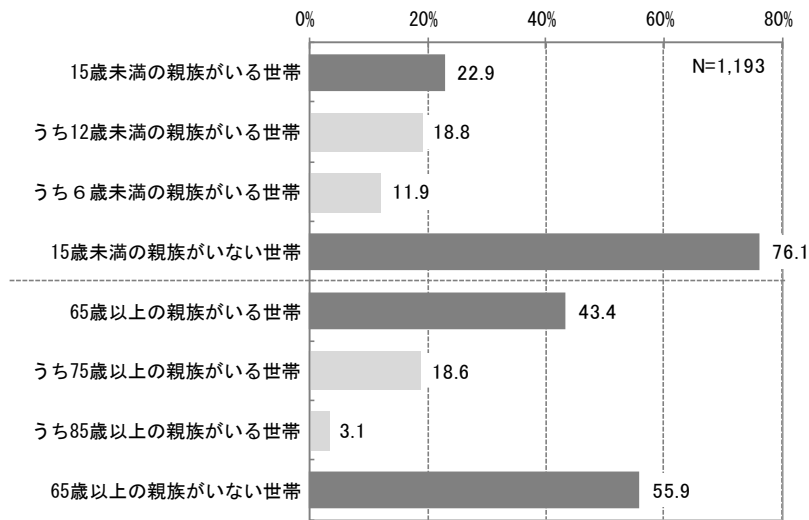


図 2.4.2 同居家族（回答者本人を含む）の15歳未満・65歳以上の有無

表 2.4.2 居住地域別 15歳未満・65歳以上の有無

		N	親15歳未満の世帯 (うち12歳未満)		親15歳未満の世帯	親65歳以上の世帯 (うち75歳以上)		親65歳以上の世帯		
全体		1,193	22.9	18.8	11.9	76.1	43.4	18.6	3.1	55.9
居住地域別	JR以南	106	17.0	12.3	8.5	81.1	54.7	24.5	3.8	44.3
	片山・岸部	183	25.1	23.0	15.3	74.9	41.5	15.3	2.7	58.5
	豊津・江坂・南吹田	190	22.6	18.4	13.2	76.8	40.5	14.7	3.2	58.9
	千里山・佐井寺	199	25.1	20.6	10.6	73.9	37.2	20.6	3.5	62.3
	山田・千里丘	270	24.4	19.3	13.3	74.4	41.1	13.0	3.0	58.1
	千里NT・万博・阪大	230	20.9	17.0	10.0	78.3	49.6	26.5	2.2	50.0
	不明・無回答	15	13.3	13.3	0.0	73.3	53.3	20.0	13.3	33.3

- 「15歳未満の親族がいる世帯」(図2.4.2)は22.9%で、うち「12歳未満の親族がいる世帯」は18.8%、「うち6歳未満の親族がいる世帯」は11.9%となっている。
- 一方、「65歳以上の親族がいる世帯」は43.4%で、うち「75歳以上の親族がいる世帯」は18.6%、「うち85歳以上の親族がいる世帯」は3.1%となっている。
- 居住地域別(表2.4.2)にみると、『15歳未満』がいるのは、JR以南地域以外の地域で2割台となっており、片山・岸部地域、千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域の順で割合が高くなっている。また、『65歳以上(回答者本人を含む)』がいるのは、JR以南地域が最も多く5割台、次いで、千里ニュータウン・万博・阪大地域が多くなっている。一方、千里山・佐井寺地域が最も少なく4割未満となっている。

5. 世帯年収（問8）

表 2.5.1 居住地域別 世帯年収

		(%)									
	N	250万円未満	250万円～499万円未満	500万円～749万円未満	750万円～999万円未満	1000万円～1499万円未満	1500万円～1999万円未満	2000万円以上	わからない	不明・無回答	平均値（万円）*
全体		1,193	17.9	28.8	18.0	12.2	9.1	3.4	6.5	3.9	585.5
居住地域別	JR以南	106	30.2	30.2	17.9	2.8	6.6	1.9	7.5	2.8	450.0
	片山・岸部	183	21.9	27.9	14.2	10.4	8.7	3.8	7.7	5.5	561.3
	豊津・江坂・南吹田	190	16.8	28.9	18.4	16.3	6.3	3.2	8.4	1.6	579.7
	千里山・佐井寺	199	10.6	28.1	20.1	13.6	11.1	4.5	7.0	5.0	660.0
	山田・千里丘	270	11.5	29.6	23.3	15.2	8.9	2.6	6.3	2.6	615.3
	千里NT・万博・阪大	230	24.8	28.3	13.9	10.0	11.3	4.3	3.0	4.3	571.0
	不明・無回答	15	6.7	33.3	0.0	13.3	13.3	0.0	13.3	20.0	625.0

※網掛け■は最も多いもの

* 平均値は、「250万円未満」から順に125万円、375万円、625万円、875万円、1,250万円、1,750万円と仮定して算出したものである。

- 回答者の世帯年収（表2.5.1）は、「250～500万円未満」が最も多く28.8%、次いで、「500～750万円未満」が18.0%、「250万円未満」が17.9%と続いており、平均金額は585.5万円となっている。
- 居住地域別にみると、JR以南地域は「250万円未満」と「250～500万円未満」が同割合で最も多くなっており、それ以外の地域は「250～500万円未満」が最も多くなっている。また、平均金額は千里山・佐井寺地域（660.0万円）が最も高く、逆にJR以南地域（450.0万円）が最も低くなっている。

6. 住宅の種類（問9）

表 2.6.1 性別・年齢別・居住地域別 住宅の種類

(%)

		N	持ち家 (一戸建て) *	持ち家 (マンション)	民間賃貸 (一戸建て)	民間賃貸 (集合住宅) *	公団・公社 (賃貸)	府営・市営 (賃貸)	社宅・寮	その他	不明・無回答	持家比率	一戸建て比率
全体		1,193	31.7	34.5	1.1	18.3	5.7	6.2	1.9	0.3	0.4	66.1	32.8
性別	女性	659	30.7	36.3	1.1	16.8	6.1	6.7	2.0	0.3	0.2	66.9	31.7
	男性	528	32.8	32.6	1.1	20.1	5.3	5.7	1.9	0.2	0.4	65.3	33.9
	不明・無回答	6	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	50.0	50.0
年齢別	30歳未満	121	22.3	30.6	0.8	29.8	5.0	6.6	4.1	0.0	0.8	52.9	23.1
	30歳代	178	27.0	33.7	1.1	29.8	2.8	2.2	3.4	0.0	0.0	60.7	28.1
	40歳代	226	23.0	39.4	1.8	23.0	4.4	4.4	3.5	0.4	0.0	62.4	24.8
	50歳代	173	36.4	39.9	0.0	13.9	4.0	4.6	0.6	0.0	0.6	76.3	36.4
	60歳代	248	30.6	38.7	0.4	12.5	6.0	11.3	0.4	0.0	0.0	69.4	31.0
	70歳以上	236	46.2	24.2	2.1	8.5	10.6	6.8	0.8	0.4	0.4	70.3	48.3
	不明・無回答	11	27.3	27.3	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	54.5	27.3
居住地域別	JR以南	106	57.5	9.4	3.8	19.8	0.9	5.7	0.9	0.9	0.9	67.0	61.3
	片山・岸部	183	48.6	18.0	0.5	21.3	2.7	6.0	2.2	0.5	0.0	66.7	49.2
	豊津・江坂・南吹田	190	29.5	32.1	0.5	33.2	0.5	1.1	3.2	0.0	0.0	61.6	30.0
	千里山・佐井寺	199	33.2	34.2	1.0	24.1	4.5	1.0	2.0	0.0	0.0	67.3	34.2
	山田・千里丘	270	19.3	60.4	1.5	14.1	1.1	1.5	1.9	0.0	0.4	79.6	20.7
	千里NT・万博・阪大	230	19.6	32.2	0.4	3.0	21.3	21.3	1.3	0.4	0.4	51.7	20.0
	不明・無回答	15	60.0	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	73.3	60.0

* 調査票では、それぞれ以下のとおりである。

※網掛け■は最も多いもの

「持ち家(一戸建て)」 : 持ち家(一戸建て、タウンハウス)

「民間賃貸(集合住宅)」 : 民間賃貸(マンション、アパート、文化住宅)

- 回答者の住宅の種類（表2.6.1）は、「持ち家（マンション）」が最も多く34.5%、次いで、「持ち家（一戸建て）」が31.7%、「民間賃貸（集合住宅）」が18.3%となっている。
- 全体の持家比率は66.1%、一戸建て比率は32.8%となっている。
- 性別にみると、女性では「持ち家（マンション）」（36.3%）が最も多く、次いで、「持ち家（一戸建て）」（30.7%）になっている。一方、男性では「持ち家（一戸建て）」（32.8%）と「持ち家（マンション）」（32.6%）がほぼ同じとなっている。
- 年齢別にみると、60歳代までは「持ち家（マンション）」、70歳代以上では「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっている。また、持家比率は、50歳代が最も高く76.3%、次いで、70歳以上が70.3%、60歳代が69.4%となっている。
- 居住地域別にみると、JR以南地域、片山・岸部地域は「持ち家（一戸建て）」、豊津・江坂・南吹田地域は「民間賃貸（集合住宅）」、千里山・佐井寺地域、山田・千里丘地域、千里ニュータウン・万博・阪大地域は「持ち家（マンション）」が最も多くなっている。持家比率は、山田・千里丘地域が最も高く79.6%、逆に、千里ニュータウン・万博・阪大地域が最も低く51.7%となっている。

7. 居住地域別プロフィール

表 2.7.1 居住地域別町名分類

地 域 名	町 丁 名
J R以南 地域	朝日町、内本町、川岸町、川園町、寿町、幸町、昭和町、吹東町、末広町、清和園町、高城町、高浜町、中の島町、西御旅町、東御旅町、日の出町、平松町、南正雀、南清和園町、南高浜町、目俵町、元町
片山・岸部 地域	朝日が丘町、片山町、上山手町、岸部北、岸部中、岸部南、芝田町、天道町、出口町、西の庄町、原町、藤が丘町、山手町
豊津・江坂・南吹田 地域	泉町、江坂町 1～4 丁目、江の木町、金田町、垂水町、豊津町、広芝町、穂波町、南金田、南吹田、芳野町
千里山・佐井寺 地域	江坂町 5 丁目、春日、佐井寺、佐井寺南が丘、五月が丘北、五月が丘西、五月が丘東、五月が丘南、千里山霧が丘、千里山高塚、千里山竹園、千里山月が丘、千里山西、千里山虹が丘、千里山東、千里山星が丘、千里山松が丘、竹谷町、円山町
山田・千里丘 地域	青葉丘北、青葉丘南、檜切山、清水、尺谷、新芦屋上、新芦屋下、千里丘上、千里丘北、千里丘下、千里丘中、千里丘西、長野西、長野東、山田市場、山田北、山田西、山田東、山田南
千里ニュータウン・万博・阪大 地域	青山台、上山田、佐竹台、千里万博公園、高野台、竹見台、津雲台、藤白台、古江台、桃山台、山田丘

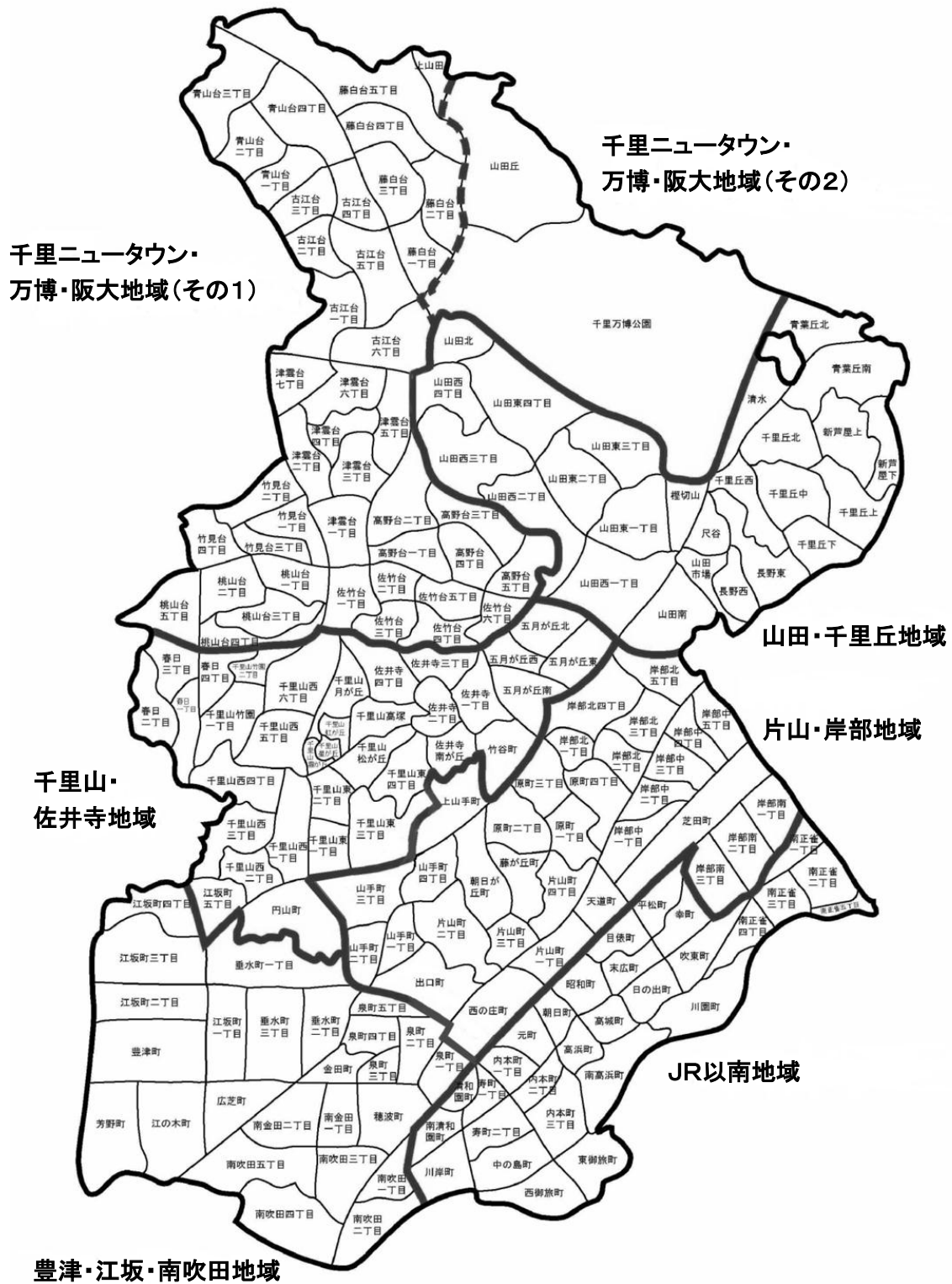


図 2.7.1 居住地域別町名分類図

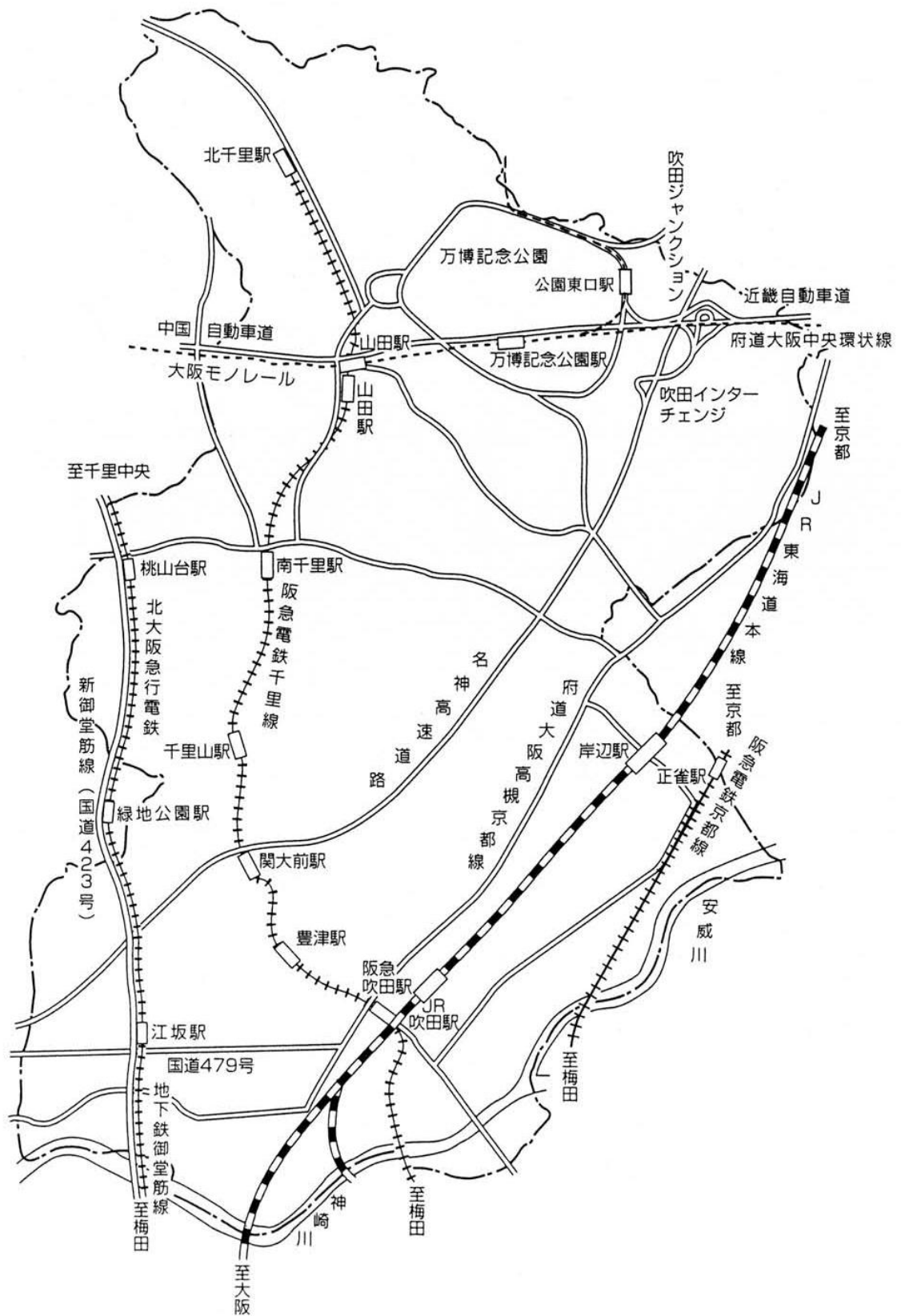


図 2.7.2 調査地域内路線図

表 2.7.2 居住地域別指標

(番号)		(単位)	J R 以南地域	片山・岸部 地域	豊津・江坂・南吹田 地域	千里山・佐井寺 地域	山田・千里丘 地域	千里ニュー 大阪・大田 地域	計	
1	地域面積	ha	361.5	537.4	538.0	482.9	555.2	1,136.0	3,611.0	
2	水面面積		26.1	5.3	11.6	1.7	3.5	17.0	65.2	
3	社寺敷地・公開庭園面積		3.2	1.4	0.7	1.8	5.4	0	12.5	
4	道路・鉄軌道敷面積		43.7	61.9	42.3	19.3	42.3	83.0	292.5	
5	公園面積		10.1	16.1	17.8	4.5	14.4	263.7	326.6	
6	コミュニティ等関係施設	箇所	3	3	1	0	3	11	21	
7	福祉・保健・病院関係施設		13	20	10	11	17	18	89	
8	社会教育・体育関係施設		10	10	8	7	15	10	60	
9	事業所		第一次産業	0	1	1	2	0	0	4
		第二次産業	243	172	552	111	150	70	1,298	
		第三次産業	1,390	1,149	3,773	1,204	1,174	970	9,660	
		合計	1,633	1,322	4,326	1,317	1,324	1,040	10,962	
10	従業員数	人	第一次産業	0	19	3	11	0	0	33
			第二次産業	3,910	1,780	8,062	744	1,137	582	16,215
			第三次産業	12,263	14,726	50,911	9,223	11,179	20,039	118,341
			合計	16,173	16,525	58,976	9,978	12,316	20,621	134,589
11	過去1年間(平成25年)の 犯罪発生件数	件	445	687	940	607	706	481	3,866	

(注) 1～4の面積は平成22年度(2010年度)「土地利用現況調査」(都市整備室)による。

5は平成25年度(2013年度)版「すいた市政概要」からの集計による。

5は広域公園・都市公園・緑地

6～8は平成26年(2014年)4月1日現在、市が管理・運営等を行なっている施設

6のコミュニティ等関係施設はコミュニティ・人権・勤労者関係施設

7の福祉・保健・病院関係施設は児童・障がい者・高齢福祉施設等

9、10の事業所数、従業員数は、平成24年(2012年)「経済センサスー活動調査」(総務省統計局)による。

11の過去1年(平成25年)間の犯罪発生件数は、吹田警察署資料(概算)による。ただし犯罪件数は交番別に集計しており、厳密に6つ居住地域と一致しない。

表 2.7.3 居住地域別プロフィール（その1）

地域名	プロフィール
J R以南 地域	<p>安威川や神崎川を隔てて大阪市と接し水運に恵まれていたことから、交通の要衝として発展し、市内でも早くから開けてきた地域です。吹田発祥の地と言われ、旧集落のまちなみや高浜神社、護国寺等の由緒ある寺社など、かつての面影を残しています。また、J R吹田駅付近は、大正時代の駅移転に伴って旭通商店街が形成されるなど、商業の中心地として発展してきました。</p> <p>地域の中には、面的整備による比較的整然とした市街地もありますが、多くは自然発生的に形成された市街地となっています。</p> <p>南西部の神崎川沿いには、大規模な工場や、市民プールやスポーツグラウンドなどのある中の島公園が立地しています。</p> <p>現在、地域の中央部で都市計画道路・十三高槻線の整備が進められています。</p>
片山・岸部 地域	<p>千里丘陵のすそ野にあたり、古来より丘陵の斜面と豊富で良質な粘土を用いて窯業が営まれ、後期難波宮や平安京の造営に用いられた瓦の生産地であったことが知られています。</p> <p>明治時代には、ビール工場が創業し、大正時代には国鉄吹田操車場が設けられ、「ビールと操車場のまち」とイメージさせた地域です。昭和に入ると「産業道路」と呼ばれる大阪高槻京都線の開通を機に、片山商店街が形成され、住宅地として発展しました。</p> <p>片山公園とその周辺には中央図書館や市民体育館、総合福祉会館、男女共同参画センター（デュオ）などが集積し、公共施設ゾーンが形成されています。また、その北東部のJ R社宅跡地に和大学が開設されました。</p> <p>東部には大阪学院大学が立地し、北東部には由緒ある寺社があり、旧集落の面影を一部に残しています。</p> <p>現在、吹田操車場跡地においては、土地区画整理事業による都市基盤施設の整備とともに、同地に移転建替える国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院を中心施設とした医療クラスターの形成をめざし、新たなまちづくりが進んでいます。</p>
豊津・江坂・南吹田 地域	<p>千里丘陵の南側にあり、地下水が豊富で垂水神社など水にゆかりのある史跡が多くあります。また、地区内の遺跡からは、古代より広域的に交流があったことがうかがえます。千里ニュータウンの開発や万国博覧会の開催を機に国道423号（新御堂筋）や地下鉄御堂筋線の延伸整備が進められ、江坂駅周辺等では土地区画整理事業が行われました。</p> <p>江坂駅を中心に、北大阪の都心的役割としての商業・業務施設やアミューズメント施設の集積する地区となっていますが、その周辺には旧集落の面影を残したまちなみや、北部には閑静な住宅地が形成されています。また、東部には市役所や文化会館（メイシアター）があり、南部の神崎川沿いには大規模な工場が数多くみられます。</p> <p>西部の松並木のある高川、中央部の桜並木のある糸田川沿いの緑道は、まちなかでの貴重な緑と水辺の空間となっています。</p> <p>現在、南部の南吹田では、おおさか東線の西吹田駅（仮称）の設置及び、主要道路など新駅周辺の整備が進んでいます。</p>

表 2.7.4 居住地域別プロフィール（その2）

地域名	プロフィール
千里山・佐井寺 地域	<p>市域中央部に位置しており、千里丘陵の起伏に富んだ地形を持ち、古くから尾根筋に佐井寺、谷筋に春日などの集落が形成されてきました。集落内には歴史的なまちなみ、佐井寺伊射奈岐神社や佐井寺など歴史的資源が数多く残されています。</p> <p>千里山地区は、大正末期に阪急千里線の開通に伴って郊外住宅地として開発され、緑豊かな閑静な住宅地として発展してきました。</p> <p>千里山駅周辺については、千里山団地建替えとともに、公共施設整備など、駅周辺の一体的・総合的なまちづくりが進んでいます。</p> <p>広大な敷地に豊かな緑とオープンスペースを持つ関西大学は、地域文化や学生向けのにぎわいのある商業地を形成してきました。</p> <p>佐井寺地区では、古くからの集落が持つ趣を残している市街地に加えて、土地区画整理事業により新しい住宅が多く建設されました。</p> <p>春日地区には、昔の面影を残す竹林、農地、ため池が残っています。</p>
山田・千里丘 地域	<p>市域東部に位置しており、山田川や旧小野原街道沿いに古くから大きな集落が形成されています。集落内には旧家や由緒ある紫雲寺、圓照寺、山田伊射奈岐神社、太鼓神輿や権六おどりなど、有形、無形の歴史的資源が数多く残されています。</p> <p>山田西地区では、民間マンションや住宅団地の建設により急速に市街化が進みましたが、ヒメボタルの保存活動や公民館活動などコミュニティ活動が盛んに行われています。また、千里丘地区は戸建住宅や社宅、企業厚生施設を中心とする住宅地でしたが、現在では、分譲マンションの開発などが進んでいます。</p> <p>山田駅は阪急千里線と大阪モノレールの乗換駅であり、万博記念公園への玄関としての役割も果たしています。阪急山田駅周辺では、地域住民と事業者、行政によるまちづくりが実施され、吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館（ゆいぴあ）が立地しています。</p>
千里ニュータウン・万博・阪大 地域	<p>竹林と雑木林の広がる丘陵地でしたが、日本で初めてのニュータウンとして、大規模開発事業が昭和 30 年代から約 10 年をかけて行われました。集合住宅と戸建住宅による住宅地、地区センターや近隣センターの商業地をはじめ、公園、道路などが計画的に整備され、大阪都心への交通利便性が高いまちとなっています。まちびらきから 50 年ほどが経過した現在では、住宅の建替えが進むなど、時代の変化に対応したまちの更新時期を迎えています。</p> <p>ニュータウン周辺部ではかつての千里丘陵の竹林や雑木林などが残されており、緑豊かな自然景観が保たれています。北部には、千里金蘭大学や自然体験交流センターや市民体育館、市民プールなどの施設が立地し、南部には千里救命救急センターなどの医療施設や多様な公共公益機能を集積した千里ニュータウンプラザが立地しています。</p> <p>万博記念公園南側には、環境配慮、防災拠点、地域交流拠点をコンセプトとしたサッカースタジアムの建設が進められています。</p> <p>また、北部の大阪大学吹田キャンパスは、国立循環器病研究センターとともに関西イノベーション国際戦略総合特区の拠点地域に指定され、医療や新エネルギーなどの分野におけるイノベーションの創出に向けた取組が図られています。</p>